

長良川鉄道の旅する

終着駅「北濃」でくつろぐ。

向こうの長良川上流では

鮎釣りをしている。
ゆるりとした時が
過ぎる。



長良川鉄道の終着駅、北濃の午後2時。鉄道写真ファンらしき人がいた。



暑い日であった。運転手が屋根に水を掛けていた。



駅食堂の「花まんま」では焼きそばをつくっていた。開業して日は未だ浅い。

夏季特集

—第3集—

TANITA
デジタルスケール
見やすい
バックライト付
大型表示
TL-280
¥33,000(税抜)

鉄道に乗ってのんびりと旅をする。空いた列車で海の方に行く、山の方に行く。美濃太田から長良川鉄道に乗って終着駅の北濃に行った。どきどきする鉄道の旅である。冬は寒いアユ釣りがされている長良川を眺めながらの夏の旅はいい。長良川鉄道は空いている。こんなに空いていいのだろうか、鉄道会社の社会貢献で運営されているように考えてしまう。昔は混んでいた、昔は活気があった、昔は良かったと思う人は多いだろう。

そんなだから鉄道好きが増えているのだろうか。昔から鉄道の雑誌はあって鉄道ファンはいた。今は少し事情が違っているようだ。

何時かのお盆の夕暮れに長良川鉄道に乗っていたら勤務を終えて東京から飛んできたという青年が隣にいた。郡上八幡の徹夜踊りをみてそのまま帰るのだという。新幹線代がもったいないから民宿でも探せばいいのだが、盆休みの郡上八幡はキャンプ場までもがふさがっている。

縦と横の直線と上手に描かれた曲線でできている大都会に沈んでいると郡上八幡の景色や人情や風情が癒してくれる。

長良川鉄道は終着の北濃駅で長いあいだ停車している。駅には「花まんま」という食堂があって蕎麦やうどんや焼きそばをだす。長良川で獲れた鮎を使って鮎の炊き込みご飯をだす。鮎が一尾のつ

いて750円だから安い。電車の人はビールを飲めばいい。

ある夏の日に北濃駅に遊びに行った。暑くて暑くてたまらない日であった。若い運転手は車輻の屋根に水を掛けていた。土曜日の午後2時、鉄道の旅を楽しむ人々が北濃駅にたむろしていた。来る人帰る人1時間に12人を数えた。東京から来た人、埼玉から来た人が混じっていて、「花まんま」のおばさんにこの駅食堂での思い出を感動したようすで語っていた。駅食堂のおばさんに記憶はなかったようであるが「花まんま」の思い出を心に抱いて都会で暮らしている人がいるのだ。

「花まんま」にはNHKの旅番組で訪れたアナウンサーが書いた色紙がおいてあった。鉄道写真家の中井精也氏がNHKの番組でやってきて「花まんま」のおばさんたちと語っていた。長良川鉄道の北濃駅は終着駅であり、通りの向こうでは鮎釣りがされている。

鉄道に乗るお金を何とか用意して時間をつくって旅にでる。「花まんま」の鮎飯のための鮎の世話をする地元の民宿は2人で泊まれば2食付きで1人6千円であった。この宿に泊まって郡上八幡や郡上の白鳥の徹夜踊りにでかける旅をした。

(写真と文章は旅行家甲斐鐵太郎)

日本計量新報

計測と科学
毎週日曜日発行
日本計量新報社

東京都千代田区神田錦町 3-11-8
(武蔵野ビル)
〒101-0054 TEL 03-3295-7871
FAX 03-3295-7874
http://www.keiryu-keisoku.co.jp/
振替口座 00140-5-12935
購読料年間 25,000円 (消費税別)

定量計量専用機

Pack
NAVI

速くハカル、

楽にツメル



Yamato

大和製衡株式会社 tel:078-918-6577
http://www.yamato-scale.co.jp/

今週の主な記事

- ① 夏季特集第3集、フォトエッセイ
- ② 経済と経営観測アンケート(1)
- ③ 日環協が会員へ法令遵守の要請、特定計量証明事業
- ④ 管理者講習、量目立入検査(香川県)ほか
- ⑤ 第67回計量士国家試験問題(10)
- ⑥ 寄稿(切田篤(大井みさほ))
- ⑦ 社説
- ⑧ 製品紹介「長野計器」、水銀温度計、機械遺産ほか

休刊のお知らせ
8月20日付は休刊し、次
号は8月27日付(3161
号)として発行します。

高分解能の追求 最小表示1μg

- 無風イオナイザー標準装備
※特許申請中
- 導電性ガラス風防採用
- フィルター用計量皿標準付属
(BM-20/22のみ)
- クロスライドドア
- USBとRS-232Cの
2方式インターフェースを採用

6機種をご用意
ひょう量: 22g~520g
最小表示: 0.001mg~0.1mg
標準価格: ¥320,000~¥800,000(税抜)



高精度分析天びん **BM** シリーズ